

1 単元構想

本単元で身に付けたい力

引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力

言語活動とその特徴

本単元では、南海大地震に備えて、被害にあわないように、あるいは被害を少なくすることができるように、資料を用いて報告文を書き、防災ポスターを作るという言語活動を設定している。調べたことや体験から、伝えたいことを多くの人に読んでもらえるポスターにすることで、意欲的に学習に向かうことができると考えている。

教材の特質

本教材は、各グループで決めた学年に対して、南海大地震から命を守るために自分ができることを考えてほしいと防災について呼びかけるポスターを書く。読み手の興味を引くために、テーマ(キャッチコピー)、資料(情報)の吟味・精選、割り付け、見出しの工夫など表現の効果を考慮して、主体的に書くことができる教材である。

児童の実態

児童はこれまでに、新聞やポスター作りに取り組み、伝えたいことや自分の考えたことを必要な資料を活用しながら書くことを学習している。しかし、資料を生かして説明することや資料の良さが伝わるような書き方が十分できたとはいえない。昨年12月実施の高知県学力定着状況調査の「図を用いて、自分の考えが伝わるように書く。」問題では、全国正答率71%の所、校内正答率90%という結果であった。

指導観

第一次では、事前に学習した南海大地震について、資料を用いて伝えたい内容を呼びかける防災ポスターを作るというゴールイメージを持たせる。グループごとに伝える学年を決め、大テーマを決めさせることで単元を通して意欲を持って取り組ませる。  
第二次では、大テーマに沿った小テーマを4つ定め、一人一人が担当する小テーマを決めた所で、それについてインターネットや本、資料などから情報を集める。その後、集めた情報から一番伝えたい情報を選び、報告文を書いていく。そして、伝えたいことが表現できているか(資料と文章、見出しなど)グループで見合い、記述・推敲を行き来させながらポスターをより良いものへと仕上げていく。  
第三次では、完成したポスターを各学年のホールに掲示し、付箋を使って感想をもらうことで、総合や委員会活動など、他教科等の学習にも生かす意欲につなげていきたい。

2 単元の目標及び単元の評価規準

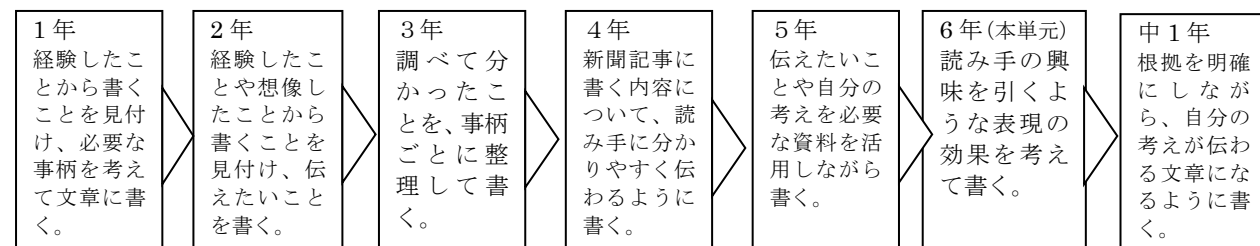
(1) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。(2)イ	「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。B(1)エ	学習課題に沿って、伝えたいことを明確にし、見通しを持って、粘り強く書き表し方を工夫して文章を書くことができる。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使っている。(2)イ	「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。B(1)エ	読み手の興味を引くポスターを作るために、学習の見通しを持って、粘り強く書き表し方を工夫して文章を書こうとしている。

3 単元の系統性



4 研究主題に迫る手立て

研究主題：目的に応じて必要な内容を整理し、自分の考えを明確にして書く力を高める学習指導の在り方  
—文章の種類や特徴に応じた書き表し方の工夫—

- 読み手に分かりやすく伝えるには、どの資料を選び、どの情報を取ってくると確実に伝わるのか、定期的にグループで推敲する時間を設けることで、自分の考えが明確になるようにする。
- 資料を示して報告文を書く際の(～を見ると、～の結果から、～ということが分かります。)などの表現を選んで書き表すことができるように、言葉集めをして教室に掲示しておく。

5 学習の流れ

学習過程	主な学習内容及び学習活動	【 】評価規準・○指導上の留意点	言語活動	言葉による見方・考え方の成長
学習目的の理解と見通し	<b>題材の設定</b> ①単元のゴールを確認し、学習の見通しを持つ。南海大地震について誰にどんなテーマで伝えたいかグループで話し合う。	・読み手の興味を引くポスターを作るために、学習の見通しを持って、粘り強く書き表し方を工夫して文章を書こうとしている。【主】	○年生に向けて、資料を用いて報告文を書き、「防災ポスター」を作る	学校にいる時間が長いから、学校で地震が起きた時の行動について伝えたいな。
	<b>内容の検討・構成の検討</b> ②伝えたいことを明らかにし、テーマを決める。 ③テーマに沿って具体的な内容(見出し)を話し合い、情報を収集する手段を考える。 ④資料を用いて報告文を書く際の書き表し方について、学習材で考える。 ⑤目的に応じて集めた情報の中から、より伝えたいことに合った資料を選択する。 ⑥資料を活用して報告文の下書きを書く。 ⑦グループごとに、ポイントに沿って下書きを推敲する。【本時】 ⑧報告文を清書し、ポスターを完成させる。	○相手意識を常に持たせ、学年に合った資料、表現になっているか確認させる。 ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使っている。【知・技(2)イ】 ・引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。【思・判・表B(1)エ】 ○資料と内容があっているか、色分けや印をつけながら確認させる。また、集めた言葉から選んで表現できているか確認させる。 ○グループごとに必要なタイミングで見合う時間を設けさせる。 ・読み手の興味を引くポスターを作るために、学習の見通しを持って、粘り強く書き表し方を工夫して文章を書こうとしている。【主】		地震が来た時に、危ない場所について分かる写真か絵の資料はないかな。
理解と表現の螺旋的な学び	<b>推敲</b> ⑨完成したポスターを全体で交流し、単元の学習を振り返る。	○図表やグラフなど資料を用いることで、伝えたいことをより効果的に表現できることを実感させる。		教室内の図か写真を使うと、イメージができて分かりやすいね
	<b>共有</b>			危ない場所のグラフは、項目が多いから、差が小さいものは省いても伝わる資料になると思う。
表現活動・単元の振り返り				テーマと資料が4つそれぞれ合っているか確かめよう。
				「この表によると～」と示すと、資料を見ながら文章を読んでもらえるね。
				呼びかけの言葉に直すと3年生に「自分もやってみよう」と思ってもらえるね。

本単元終了時の目指す児童の姿  
伝えたいことに合った資料を収集・選択し、適切な資料を用いて、自分の考えを文章に書く姿。

6 本時の学習 (6 / 9 時間)

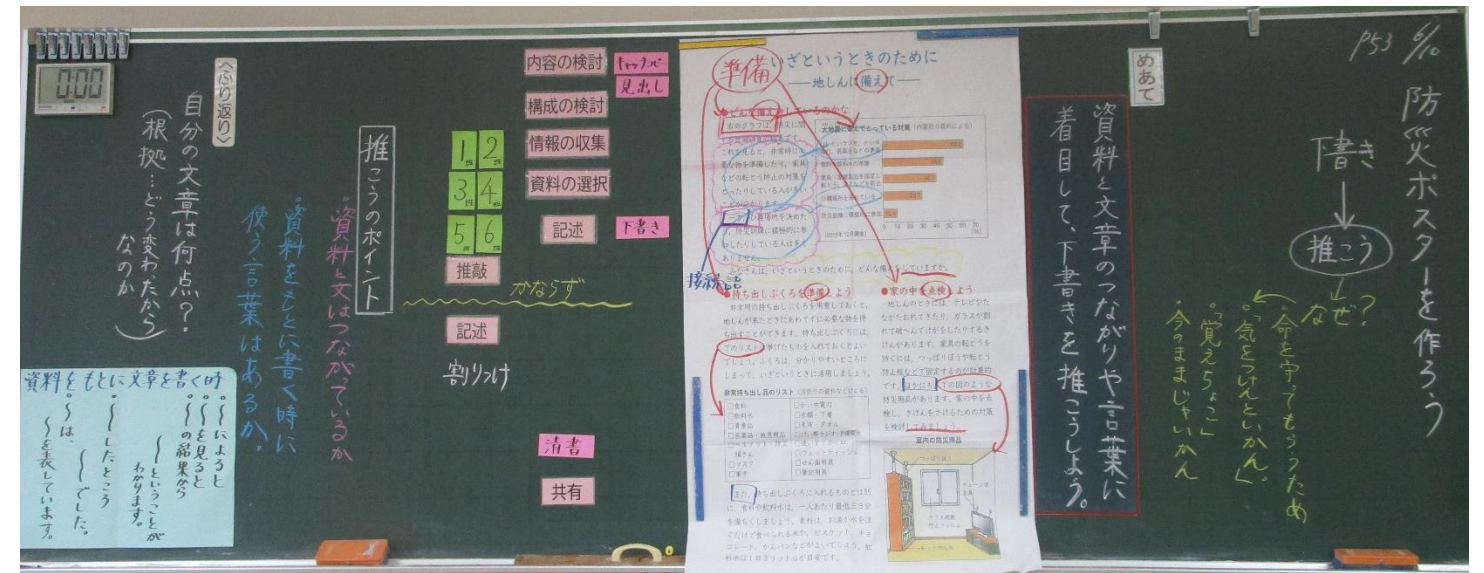
(1) 目標

図表やグラフと結び付けて伝えたい内容が書けているか、文章を推敲することができる。

(2) 展開

学習過程	学習内容及び学習活動	主な発問 (※) 予想される児童の反応 (○)	指導上の留意点 (●) 評価規準及び評価方法 (☆)
学習目的の理解	1. 今までの学習を想起する。	○前の時間は、資料を選んでポスターの下書きを書いたね。	●読み手の反応を意識して推敲する必要性をもたせる。
	2. 本時の課題を確認する。	めあて 資料と文章のつながりや言葉に着目して、書いた文章を推敲しよう。	
推敲・評価	3. グループで2点のポイントに気を付けながら推敲する。 ・資料と文章 ・文章表現 (グループ)	※2つのポイントに気を付けて、ポスターをより良いものにしていきましょう。 ○この図と伝えたいことは少し違うんじゃないかな。 ○～を見ると、～の結果からという言葉がちゃんと使えているから、資料にも目が行くね。 ※資料と結び付いていることが文章のどこから分かりますか。 ○「クッションで頭を守る」と書いて、図のことを表している。 ○「家具が倒れてくる」「食器が割れる」危険があることを書いている。	●推敲のポイント①資料と文章のつながり②報告文に合った言葉になっているかの2点に着目することを確認する。 ●気付いた点を記入した付箋を活用して、推敲の手がかりとさせる。 ●資料と内容が合っているか、色分けや印をつけて確認させる。また、集めた言葉から選んで表現できているか確認させる ☆引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 【思・判・表 B(1)エ】
	4. 推敲が終わったグループから清書を書くようにする。(個人)	○推敲する前の文章より、相手に伝えたいことが伝わる文章になったね。 ○文字数は200文字以内になるかな。	●推敲が早く終わったグループには、清書を書き始めさせる。
振り返り	5. 振り返り	○「～を見ると、」という言葉を使うと資料と関係づけることができるようになった。 ○図に合った文に直すと、伝えたいことが良く伝わるようになった。	●今日の活動で、自分の文章はどのように良かったのか振り返らせる。

(3) 板書計画



(4) 準備物

ホワイトボード ポスター下書き 付箋

言語活動のモデル

